

論
説

華人社会における辛亥革命百周年記念事業の意義
——「周年記念事業」報道の政治性——

松
本
武
彦

目 次

はじめに

一 僑報にみる「周年記念事業」記事

二 辛亥革命百周年記念事業の概要

1 本国における記念事業

2 日本における記念式典

3 講演、シンポジウム、学習会

4 写真等の展覧会

5 同郷会活動との連携

6 その他

おわりに

はじめに

海外の華人社会においては、しばしば華人性の維持や強化などを目的として、歴史的事件・出来事の発生や特定の組織・集団の形成からの年数経過を契機に、それらの意義を顕彰する活動がおこなわれる。華人性の維持・強化とは、言うなれば華人と母国・僑郷との「絆」の維持・回復・強化を以って果たされる。本稿では、そうした活動を、大掴みに「周年記念事業」（中国語表記では「周年紀念事業」と表記される）と呼ぶ。

「周年記念事業」の実際においては、華人化に向けた内容の顕示性や頻度は中国本土におけるそれよりも強くまた多い場合がある。中国国内よりも多様なメディア・情報に触れる機会の多い海外の華人社会においては、ややもすれば海外の非華人的要素との融合や同化に対抗し、より頻繁で広範に強化された活動が要求されるからである。

結果として、活動の実相は政治的・文化的等多面性を持つこととなるが、これを機能的側面から検討すれば、ひとつは華人社会の個人や特定集団に対する情報や知識の伝達——たとえば近代中国における歴史事件の「周年記念事業」によって、その出来事に関わる歴史知識や歴史的意義を華人社会に周知する場合——であり、ひとつは華人社会内における帰属意識の涵養である。帰属の対象は華人社会全体である場合——典型例は建国何周年記念事業——もあるし、華人社会を構成する個別集団の場合——たとえば同郷会組織や同職集団の創立何周年事業といった場合——もある。

換言すれば、華人社会における「周年記念事業」を対象とする分析は、そこでの華人性つまり当該華人社会にお

ける華人の本質的性格が如何に理解されているか——華人自身にもまた本国においても——を明らかにすることにほかならない。

本稿では、以上のような意義を持つ「周年記念事業」が、いつ、どのような内容で行われているかを、在日華人社会で発行されている複数の僑報の記事から抽出することとしたい。まず、いかなる「周年記念事業」がおこなわれているかを網羅的に抽出し、そのうえで、二〇一二年に一〇〇周年を迎えて行われた「辛亥革命百周年記念事業」に関して、具体的にその内容を分析し、これによって僑報での「周年記念事業」報道の意義・本質について考察する。

「辛亥革命百周年記念事業」を分析対象とするのは、辛亥革命が、専制王朝体制に終止符を打った歴史的出来事としての重要性を持っているだけでなく、その後の中国の現代化の出発点となった変革であったことから、経済的にはもちろん文化的な面からも意義が巨大であったからである。

分析の対象史料として、在日僑報を取り上げるのは、辛亥革命と日本との関係が他地域と比較して特異であるからである。中国大陸に近接する日本は、孫文など革命派の策源地となり、彼らを援助する多様な日本人が輩出されただけでなく、一〇〇年前の在日華僑・華人社会も、辛亥革命に深いかわりを持った。つまり「辛亥革命百周年記念事業」は在日華人にとって、単なる歴史事件の顕彰ということだけでなく、彼らの日本における歴史その物の回顧やこれによるアイデンティティの確認という意味を持っているのである。

分析対象は一九五三年創刊の『華僑報』と横浜において発行されている『横浜華僑通訊』である。前者は、東京都中央区銀座の東京華僑総会、いわゆる大陸系華僑とされる華僑・華人組織によって、現在月に二回一日と一五日

に年間購読料五〇〇〇円で発行されており、二〇一二年二月一日で一七九八号を数える。⁽¹⁾『関西華僑報』とならんで在日華僑華人によるいわば公的意志表明機能を持つ僑報のひとつであり、記事内容は北海道から九州まで全国を網羅しており、その意味では大陸系在日華僑華人の代表紙と言えよう。後者は、神奈川県横浜市山下町の横浜華僑総会、いわゆる大陸系華僑とされる華僑・華人組織によって、現在月に一回一日に一部二〇〇〇円、年間購読料二〇〇〇円で発行されており、二〇一二年二月一日で四五七号を数える。⁽²⁾紙名に表れているように、報道は横浜華僑社会に関係する記事を中心とするが、在日華僑華人全体に関わる記事も掲載される場合がある。

歴史性と記事内容の網羅性から在日華人社会の重要なメディアとしうる『華僑報』および『横浜華僑通訊』の、二〇一一年一月から二〇一二年一月までの記事について、左に、広告・社告を含む「周年記念事業」関係記事を抽出した。

一 僑報にみる「周年記念事業」記事

以下に、在日華人社会における「周年記念事業」の全体像を理解するために、『華僑報』と『横浜華僑通訊』の分析対象時期の記事のうち、すべての「周年記念事業」に関わるものを抽出した。表記は、執筆者・記事タイトル・掲載紙名・号数・発行年月・掲載頁。記事のタイトルから事業の内容が必ずしも明らかにならないもの場合には、その内容について簡単な注記を付した。

「国交正常化40周年を前に 野田首相訪中、温総理と会談」

『華僑報』一七九六、二〇一二年一月、第一面。

繆光祐「辛亥革命100周年記念旅行 広州・中山・開平の三都市を回る（下）」

『華僑報』一七九六、二〇一二年一月、第三面。

謝成發「2012 新年のごあいさつ」

『横浜華僑通訊』四五六、二〇一二年一月、第一面。

日中共同声明四〇周年に言及。

「県日中友好協会『辛亥革命記念シンポ』開く」

「中日国交正常化40周年記念『北京故宫博物院200選』」

『横浜華僑通訊』四五六、二〇一二年一月、第二面

「『辛亥革命100周年記念』中山・広州・開平の旅楽し」

『横浜華僑通訊』四五六、二〇一二年一月、第四面。

繆光祐「辛亥革命100周年記念旅行 広州・中山・開平の三都市を回る（上）」

「『北京故宫博物院200選』 1月2日から東京国立博物館で」

『華僑報』一七九五、二〇一二年一月、第二面。

「日中国交正常化40周年記念『中国美術品里帰りオークション』―作品募集・最終査定会開催―（株）全日本オークション左明貴子代表」

『華僑報』一七九四、二〇一一年一二月、第二面。

「辛亥革命100周年 神奈川大でシンポジウム」

「『孫文展』開催される」

「程大使、設立総会出席 12年、中日国交正常化40周年」

『横浜華僑通訊』四五五、二〇一一年一二月、第一面。

「辛亥革命100周年記念シンポジウム『辛亥革命とアジア』」

「『辛亥革命100周年記念シンポジウム』かながわ」

『横浜華僑通訊』四五四、二〇一一年一二月、第一面。

「中国国連復帰40周年 中国と国交、一七二カ国に増加」

『横浜華僑通訊』四五四、二〇一一年一二月、第三面

「北京日本帰国華僑聯誼会 成立十周年祝賀大会開く 孫炳日会長就任、陳富美氏名誉会長に」

『華僑報』一七九三、二〇一一年一二月、第一面。

「辛亥革命100周年記念国際シンポジウム―アジア主義・近代ナショナリズムの再検討―」

「日中国交正常化四十周年記念『文物里帰りオークション』について語る(株)全日本オークション左明貴子代表」

『華僑報』一七九三、二〇一一年一二月、第二面。

「中華民族の偉大な復興を強調 辛亥革命百周年で胡主席が重要演説」

- 「新潟華僑華人総会が 辛亥革命百周年で記念講演会開く」
- 「日本中国文化交流協会 創立55周年盛大に祝う 寥雅彦東京華僑総会会長出席」
- 「盛大に成立50周年祝う 劉総領事迎え東京華僑婦女会が祝賀会」
- 『華僑報』一七九二、二〇一一年一月、第一面。
- 「辛亥革命博物館 武漢にオープン」
- 「慶祝国慶62周年」
- 「中国大使館が国慶節招待会 友好人士、華僑華人ら一千人余出席」
- 「長野僑会で国慶祝賀会 劉総領事が祝賀メッセージ」
- 「中秋の佳節に国慶を祝う 札幌で科技聯盟と婦女会が共催」
- 『華僑報』一七九一、二〇一一年一〇月、第一面。
- 「辛亥革命とアジア」 神奈川県大学でシンポジウム」
- 「辛亥革命百周年記念 シンポジウムのご案内 辛亥革命とアジア」
- 『華僑報』一七九一、二〇一一年一〇月、第二面。
- 「映画『辛亥革命』一般公開 9月23日から全国の映画館で」
- 「国慶62周年慶祝聯歡会での寥雅彦会長の挨拶」
- 『華僑報』一七九〇、二〇一一年一〇月、第一面
- 「(社) 広東同郷会敬老慶祝会開く『辛亥百年 華僑豊碑』写真展も」

「辛亥革命百周年記念 旅行会のお知らせ」

「日本新華僑華人会が国慶62周年祝賀晩会」

「慶祝中華人民共和国成立62周年」

浙江同郷会、華僑互助合作社、中華書店など企業・団体の六二周年を祝う広告

『華僑報』一七九〇、二〇一一年一〇月、第二面。

「慶祝中華人民共和国成立62周年 慶祝中日国交正常化39周年 記念辛亥革命100周年」

『横浜華僑通訊』四五三、二〇一一年一〇月、第一面。

「中華人民共和国駐日本国大使館程永華特命全權大使メッセージ」

『横浜華僑通訊』四五三、二〇一一年一〇月、第二面。

中華人民共和国建国六二周年に言及。

「『辛亥百年 華僑豊碑』写真展開催」

『横浜華僑通訊』四五三、二〇一一年一〇月、第四面。

「広東同郷会敬老大会開く『辛亥百年 華僑豊碑』写真展併催」

「お知らせ 募集 辛亥革命100周年記念旅行会」

『横浜華僑通訊』四五三、二〇一一年一〇月、第五面。

「辛亥革命100周年記念 第1回学習会（11年5月28日）『辛亥革命と中国の統一』」

『横浜華僑通訊』四五三、二〇一一年一〇月、第六面。

「慶祝中華人民共和国成立62周年」

『横浜華僑通訊』四五三、二〇一一年一〇月、第八面。

中華人民共和国建国六二周年を祝う企業、個人による広告。

「『夢回東方』東京で発刊式」

「慶祝中華人民共和国成立62周年 慶祝中日国交正常化39周年 記念辛亥革命100周年」

『横浜華僑通訊』四五二、二〇一一年九月、第一面。

一〇月一日から十一月八日までの記念行事予定。

符順和「辛亥革命百周年記念 日中友好のための青少年近代史セミナー」日中友好のためのセミナー開かれる」

『横浜華僑通訊』四五二、二〇一一年九月、第二面。

「中華学校校友会、60周年記念大会・聯歡会を開催す」

『横浜華僑通訊』四五二、二〇一一年九月、第三面。

「辛亥革命100周年記念 第一回学習会（11年5月28日）《辛亥革命と中国の統一》」

『横浜華僑通訊』四五二、二〇一一年九月、第四面。

「僑胞觀衆千八百人を魅了『文化中国・辛亥百年』芸術団公演」

「辛亥革命百周年記念し 中国大使館が招待会」

「辛亥革命百周年で記念座談会 中国大使館と華僑統促会が共同主催」

「中華人民共和国成立62周年慶祝パーティーのご案内」

〔東京華僑婦女会成立50周年祝賀会のご案内〕

『華僑報』一七八九、二〇一一年九月、第二面。

〔中華人民共和国成立62周年慶祝パーティーのご案内〕

〔愛知華僑総会、成立40周年を盛大に祝う〕

〔東京華僑婦女会成立50周年祝賀会のご案内〕

〔国慶62周年祝賀広告募集〕

『華僑報』一七八八、二〇一一年九月、第二面。

〔関帝誕2011〕『横浜華僑通訊』四五二、二〇一一年八月、第五面。

横浜における関聖帝君鎮座一五〇周年を祝う催しに関する記事。

〔辛亥革命100周年記念 第1回学習会（11年5月28日）《辛亥革命と中国の統一》〕

〔誰モ見テイナイ写真〕

〔全日本華僑華人中国平和統一促進会 お知らせ〕

〔辛亥革命百周年記念 日中友好のための青少年セミナー〕

『横浜華僑通訊』四五二、二〇一一年八月、第六面。

〔辛亥革命百周年記念の中日共同記念イベント始動〕

〔国務院僑務弁公室派遣 文化中国・辛亥百年芸術団公演のご案内〕

『華僑報』一七八七、二〇一一年八月、第一面。

- 「『辛亥革命百周年』記念で 華僑統促会が第三回学習会」
- 「国慶62周年祝賀広告募集」
- 『華僑報』一七八七、二〇一一年八月、第二面。
- 「辛亥革命百周年記念 日中友好のための青少年近代史ゼミ」
- 『華僑報』一七八六、二〇一一年八月、第二面。
- 「『辛亥革命百周年』記念で 華僑統促会が第二回学習会」
- 「(協) 日本華僑経済合作社 盛大に創立60周年祝う」
- 『華僑報』一七八五、二〇一一年七月、第二面。
- 「閔帝誕2011 閔聖帝君鎮座150周年記念行事予定表」
- 『横浜華僑通訊』四五〇、二〇一一年七月、第一面。
- 「聴講しませんか? 『辛亥革命100周年 中国革命の父・孫文と横浜華僑』
- 『横浜華僑通訊』四五〇、二〇一一年七月、第四面。
- 「『孫文と梅屋庄吉』7月26日から東京国立博物館で」
- 『華僑報』一七八五、二〇一一年七月、第二面。
- 「中山市のルーツ探しと見学観光の旅」
- 「辛亥革命百周年記念 第三回学習会のご案内」
- 「寥会長ら日本から50名出席 マカオで辛亥革命百周年大会」

『華僑報』一七八四、二〇一一年七月、第一面。

「辛亥革命百周年記念し華僑和統会が学習会開く」

『華僑報』一七八三、二〇一一年六月、第一面

「『日中友好会館後楽寮25周年記念祝賀会』のご案内」

「広東省中山市出身者の名簿作成にご協力を！」

『華僑報』一七八三、二〇一一年六月、第二面。

「中山同郷会設立準備委員会 広東省中山市出身者の名簿作成にご協力ください」

『横浜華僑通訊』四四九、二〇一一年六月、第三面。

「辛亥革命100周年記念 勉強会のお知らせ」

『横浜華僑通訊』四四八、二〇一一年五月、第二面。

「一連の記念活動展開へ 中国僑聯、辛亥革命百周年で」

「辛亥革命百周年記念勉強会開催のお知らせ」

「広東省中山市出身者の名簿作成にご協力を！」

『華僑報』一七八一、二〇一一年五月、第一面。

「2011年森下洋子舞踏歴60周年記念 新『白毛女』全幕東京公演 松山バレエ団」

『華僑報』一七七九、二〇一一年四月、第一面。

「2011年森下洋子舞踏歴60周年記念 新『白毛女』全幕」

『華僑報』一七七八、二〇一一年四月、第二面。

「『日中友好会館後楽寮25周年記念祝賀会』のご案内」

「国際婦女節で記念の集い 50周年迎える東京華僑婦人会」

『華僑報』一七七七、二〇一一年三月、第一面。

「日本中国文化交流協会創立55周年記念『写真で見ると中日文化交流の55年展』」

『華僑報』一七七七、二〇一一年三月、第二面。

以上のうち、辛亥革命百周年にかかわる「周年記念事業」に関する記事は、左に示す通りである。

「県日中友好協会『辛亥革命記念シンポ』開く」

『横浜華僑通訊』四五六、二〇一二年一月、第二面。

「『辛亥革命100周年記念』中山・広州・開平の旅楽し」

『横浜華僑通訊』四五六、二〇一二年一月、第四面。

繆光祐「辛亥革命100周年記念旅行 広州・中山・開平の三都市を回る（下）」

『華僑報』一七九六、二〇一二年一月、第三面。

「辛亥革命100周年 神奈川大でシンポジウム」

「『孫文展』開催される」

『横浜華僑通訊』四五五、二〇一一年二月、第一面。

繆光祐「辛亥革命100周年記念旅行 広州・中山・開平の三都市を回る（上）」

『華僑報』一七九五、二〇一一年二月、第二面。

「辛亥革命100周年記念シンポジウム『辛亥革命とアジア』」

「『辛亥革命100周年記念シンポジウム』かながわ」

『横浜華僑通訊』四五四、二〇一一年一月、第一面。

「辛亥革命100周年記念国際シンポジウム―アジア主義・近代ナショナリズムの再検討―」

『華僑報』一七九三、二〇一一年一月、第二面。

「中華民族の偉大な復興を強調 辛亥革命百周年で胡主席が重要演説」

「新潟華僑華人総会が 辛亥革命百周年で記念講演会開く」

『華僑報』一七九二、二〇一一年一月、第一面。

「慶祝中華人民共和国成立62周年 慶祝中日国交正常化39周年 記念辛亥革命100周年」

『横浜華僑通訊』四五三、二〇一一年一月、第一面。

『辛亥革命百年 華僑豊碑』写真展開催」

『横浜華僑通訊』四五三、二〇一一年一月、第四面。

「広東同郷会敬老大会開く『辛亥革命百年 華僑豊碑』写真展併催」

「お知らせ 募集」 辛亥革命100周年記念旅行会」

『横浜華僑通訊』四五三、二〇一一年一〇月、第五面。

『辛亥革命100周年記念 第1回学習会（11年5月28日）《辛亥革命と中国の統一》』

『横浜華僑通訊』四五三、二〇一一年一〇月、第六面。

『映画『辛亥革命』一般公開 9月23日から全国の映画館で』

『華僑報』一七九〇、二〇一一年一〇月、第一面。

『辛亥革命博物館 武漢にオープン』

『華僑報』一七九一、二〇一一年一〇月、第一面。

『辛亥革命とアジア』 神奈川大学でシンポジウム』

『辛亥革命百周年記念 シンポジウムのご案内』辛亥革命とアジア』

『華僑報』一七九一、二〇一一年一〇月、第二面。

〔(社) 広東同郷会敬老慶祝会開く『辛亥百年 華僑豊碑』写真展も〕

『辛亥革命百周年記念 旅行会のお知らせ』

『華僑報』一七九〇、二〇一一年一〇月、第二面。

『慶祝中華人民共和国成立62周年 慶祝中日国交正常化39周年 記念辛亥革命100周年』

『『夢回東方』東京で発刊式』

『横浜華僑通訊』四五二、二〇一一年九月、第一面。

符順和『辛亥革命百周年記念 日中友好のための青少年近代史セミナー』日中友好のためのセミナー開かれる』

『横浜華僑通訊』四五二、二〇一一年九月、第二面。

「僑胞觀衆千八百人を魅了『文化中国・辛亥百年』芸術団公演」

「辛亥革命百周年記念し 中国大使館が招待会」

「辛亥革命百周年で記念座談会 中国大使館と華僑統促会が共同主催」

『華僑報』一七八九、二〇一一年九月、第一面。

「辛亥革命100周年記念 第1回学習会（11年5月28日）《辛亥革命と中国の統一》」

『横浜華僑通訊』四五二、二〇一一年九月、第四面。

「辛亥革命百周年記念し 東京で『夢回東方』発刊式」

「国務院僑務弁公室派遣 文化中国・辛亥百年芸術団公演のご案内」

『華僑報』一七八八、二〇一一年九月、第一面。

「辛亥革命百周年記念の中日共同記念イベント始動」

「国務院僑務弁公室派遣 文化中国・辛亥百年芸術団公演のご案内」

『華僑報』一七八七、二〇一一年八月、第一面。

「『辛亥革命百周年』記念で 華僑統促会が第二回学習会」

『華僑報』一七八七、二〇一一年八月、第二面。

「辛亥革命百周年記念 日中友好のための青少年近代史ゼミ」

『華僑報』一七八六、二〇一一年八月、第二面。

- 「辛亥革命100周年記念 第1回学習会（11年5月28日）《辛亥革命と中国の統一》」
「誰モ見テイナイ写真」
- 「全日本華僑華人中国平和統一促進会 お知らせ」
- 「辛亥革命百周年記念 日中友好のための青少年セミナー」
- 「横浜華僑通訊」四五一、二〇一一年八月、第六面。
- 「聴講しませんか？『辛亥革命100周年 中国革命の父・孫文と横浜華僑』」
- 「横浜華僑通訊」四五〇、二〇一一年七月、第四面。
- 「『辛亥革命百周年』記念で 華僑促進会が第二回学習会」
- 「華僑報」一七八五、二〇一一年七月、第一面。
- 「『孫文と梅屋庄吉』七月二六日から東京国立博物館で」
- 「華僑報」一七八五、二〇一一年七月、第二面。
- 「中山市のルーツ探しと見学観光の旅」
- 「辛亥革命百周年記念 第三回学習会のご案内」
- 「寥会長ら日本から50名出席 マカオで辛亥革命百周年大会」
- 「華僑報」一七八四、二〇一一年七月、第一面。
- 「中山同郷会設立準備委員会 広東省中山市出身者の名簿作成にご協力ください」
- 「横浜華僑通訊」四四九、二〇一一年六月、第三面。

「広東省中山市出身者の名簿作成にご協力を！」

『華僑報』一七八三、二〇一一年六月、第二面。

「辛亥革命百周年記念し華僑和統会が学習会開く」

『華僑報』一七八三、二〇一一年六月、第一面。

「二連の記念活動展開へ 中国僑聯、辛亥革命百周年で」

「辛亥革命百周年記念勉強会開催のお知らせ」

「広東省中山市出身者の名簿作成にご協力を！」

『華僑報』一七八一、二〇一一年五月、第二面。

「辛亥革命100周年記念 勉強会のお知らせ」

『横浜華僑通訊』四四八、二〇一一年五月、第二面。

二 辛亥革命百周年記念事業の概要

『華僑報』および『横浜華僑通訊』によって在日華僑・華人社会に紹介、告知された辛亥革命百周年の諸事業は、上掲の内容によれば、以下のような分類が可能となる。

1 本国における記念事業

第一に、本国中国における記念事業の紹介である。二〇一一年五月一日に発行された『華僑報』³は、中国に帰国した華僑の全国組織である中華全国帰国華僑聯合会（中国僑聯）が北京で記者会見し、孫文の偉大な功績をしのび辛亥革命以降百年の間に「広範な華僑が中華民族の進歩と繁栄のために大きな貢献をしてきた足跡をたどる」ため、六月以降座談会、写真展、書画会などを開催することを発表した、と報道している。また、二〇一一年七月一日刊行の『華僑報』⁴は、「寥会長ら日本から50名出席 マカオで辛亥革命百周年大会」として、中国僑聯と中華僑聯總會主催による「華僑華人紀念辛亥革命一百周年大会」および「華僑与辛亥革命・建国方略与復興偉業」写真展の開幕式が、マカオの東亜運動会体育館国際会議センターで開催され、日本からも東京華僑總會の寥雅彦会長などおよそ五〇名が参加したことが伝えられた。マカオ特別行政区行政長官、中国僑聯主席などによる挨拶があり、辛亥革命当時の写真展がおこなわれた、という。辛亥革命が起こった一〇月に入ると、『華僑報』⁵が同月八日に辛亥革命勃発の地である湖北省武漢で「辛亥革命博物館」が開館したことを伝えている。同館は、革命に関連する文化財の収蔵、展示、武漢近現代史の研究、学术交流などの活動をおこなう予定だという。一〇月九日には人民大会堂で「辛亥革命百周年記念大会」が開催されたが、一月一日付けの『華僑報』⁶はそこでの胡锦涛国家主席の演説を紹介した。胡主席は、中華民族の偉大な復興を実現するため、「中国の特色ある社会主義」、「愛国主義」、「平和、発展、協力」が重要であると述べた、という。

2 日本における記念式典

第二は、日本国内における記念式典に関する報道である。『華僑報』⁷⁾は、九月四日、中国駐日大使館は全日本華僑華人中国平和統一促進会（日本華僑統促会）と共同で、「記念座談会」を開催した、と伝えている。日本華僑華人聯合總會、東京華僑總會、留日台湾省民会、横浜華僑總會、日本華人教授会議、全日本学友会、日本中華総商會、日本華僑華人文化芸術家連合会など東日本・東京地区の華僑華人団体の代表者五〇名余りが出席したこの会では、程永華大使が挨拶した後、中国平和統一促進会副秘書長および全日本華僑華人統促会会長が基調発言をおこない、華僑華人のそれぞれが辛亥革命の成果や孫文の教えを銘記し、「中国の完全統一」、「台湾問題の完全解決」、「兩岸の更なる平和と発展」を目指すべきだと述べたという。この会は、「座談会」とはされているが、単なる参加者の意見表明の場というよりは、「辛亥革命百周年を記念する現実的意義」とくに台湾との平和統一問題について在日華僑華人社会全体で確認する、ある種の式典であったと見ることができよう。さらに、駐日大使館は、同日、大使館で「辛亥革命百周年記念レセプション」を開催した。『華僑報』⁸⁾は、レセプションでの程大使の挨拶の内容など会の模様を報道している。同会には、日本の国会議員、在日華僑華人、「台湾同胞」、留学生・学者代表など三〇〇名近くが出席し、大使は、孫文が「中華振興、中国統一」のスローガンを初めて唱えた。「今日、辛亥革命を記念するのは時代のチャンスをやよりよくつかみ、麗しい未来を築くためである」。日本の多くの友人が孫文を全力で支援し、在日華僑は革命事業に積極的に呼応し、身を投じた。日本と中国は、「双方が共に両国関係の長期的で、健全な、安定した発展のための一層有利な条件を整えるよう希望する」などと語った、という。横浜では、一〇月一

日に、横浜華僑総会が主催して、中華人民共和国建国六二周年、日中国交正常化三九周年とあわせて、市内のホテルを会場に辛亥革命百周年の記念式典がおこなわれ、その模様は『横浜華僑通訊』⁹⁾が報道している。記念式典と前後して、横浜中華街では、慶祝パレードなどもおこなわれた、という。さらに、神奈川県日本中国友好協会・辛亥革命百周年記念行事神奈川県実行委員会主催で神奈川県・横浜華僑総会・神奈川県新聞社など後援の「中国辛亥革命100周年記念シンポジウム」¹⁰⁾が開かれたという。この催しは一月二三日に横浜市開港記念会館で開催された「シンポジウム」とされているが、主催者や来賓の挨拶、NHK製作の辛亥革命・孫文と日本・日本人に関する番組の視聴が会の半分を占め、基調講演に続いておこなわれた「パネルディスカッション」も含め、講演会なし記念式典的な色彩が濃いものと言えよう。

3 講演、シンポジウム、学習会

第三に、辛亥革命に関する学術的な講演、シンポジウム、学習会の告知や紹介である。講演では、新潟華僑華人総会が開催した、同会理事で新潟大学教員の張雲氏の「辛亥革命百周年で世界の中の中国を考える——中国・日本・アメリカ三角関係を中心に」¹¹⁾がある。

張氏は、辛亥革命の歴史的背景と革命以後の百年間の劇的变化を指摘するなどし、総領事館・新潟県・新潟市の関係者、留学生、地域住民など六〇余名が聴講したという。

シンポジウムは、ふたつ紹介されている。ひとつは中国の清華大学・中国史学会それに日本の神奈川県が共同で主催し中国大使館・神奈川県・神奈川県日中友好協会・横浜華僑総会・朝日新聞社などの後援で、中国・日本・

アメリカなどの研究者が参加して、一月五日六日に横浜の神奈川大学で開かれた「辛亥革命百周年記念シンポジウム 辛亥革命とアジア」である¹²⁾。もうひとつは、一月一九日二〇日、東京大学本郷キャンパスで開催の、特定非営利活動法人中日学術交流センター・日本人教授会議による「辛亥革命一〇〇周年記念国際シンポジウム——アジア主義・近代ナショナリズムの再検討——」である¹³⁾。主催者は日本の大学などで教鞭をとる華人研究者の団体である。僑報には報道されていないが、日本では、これら以外にも、東京で大規模な国際シンポジウムが少なくとも二件開催されている。ひとつは、一月三日、財団法人孫中山記念会などが主催し日本外務省、中国駐日大使館などが後援して開かれた「孫文の理想と東アジア共同体」シンポジウムである。この会は、福田康夫元首相が実行委員長をとめる「辛亥革命百周年記念行事JAPAN」の一環として開催された¹⁴⁾。もうひとつは、一月三日から二日間にわたって東京大学駒場キャンパスでおこなわれた「辛亥革命百周年記念日本会議 東京会議」である。日本・中国をはじめアメリカやモンゴルなどからの研究者が参加した全体会と複数の分科会からなる学術的会議であった¹⁵⁾。これらがなぜ僑報に記事や告知といったかたちで紹介されなかったのかについては後述する。

いくつかの主催者によって開かれた学習会についても、僑報の記事となっていない。中学・高校生や一般を対象とした学習会として、八月四日五日に教育関係者などによる「地域から考える世界史プロジェクト」の主催により、「辛亥革命百周年記念 日中友好のための青少年近代史セミナー」が開催された¹⁶⁾。日本人および華僑華人の中学・高校生が参加して研究者による講演を聴講し、意見交換をおこない、横浜中華街の辛亥革命関係遺跡などをたずねたという。このことを紹介した『横浜華僑通訊』の記事は、同会の主催者が、八月二一日、熊本県荒尾市で中学・高校生向けに「宮崎兄弟と孫文セミナー」荒尾」を開催したことにも触れている。在日華僑華人の台湾問題に関

する組織である全日本華僑華人中国平和統一促進会は、上述の九月に中国駐日大使館との共催で開催されることになる百周年の記念集会に向けて、五月末から三回にわたって在日華人学者を講師とした学習会を企画・実施した。⁽¹⁷⁾ 東京華僑会館を会場とし、毎回二名の華人学者が「辛亥革命と振興中華」、「辛亥革命と国民党」などの論題で講義を行った。参加者はのべ約一〇〇名にのぼったという。

4 写真等の展覧会

第四は、辛亥革命に関する写真や遺物の展示・展覧会である。東京国立博物館での「孫文と梅屋庄吉」展、横浜での「辛亥百年 華僑豊碑」展がある。⁽¹⁸⁾ 後者は、広東華僑博物館の監修により広東省僑務弁公室が辛亥革命百周年を記念して製作した写真集で、横浜華僑会館会議室、広東同郷会敬老慶祝会などで展示されたあと、広東同郷会から横浜山手中華学校に寄贈される予定という。

5 同郷会活動との連携

横浜において広東同郷会の催しで辛亥革命百年記念の写真展が開かれたように、同郷会とくに孫文の出身地である広東省ないし同省中山市出身者によって組織されている同郷会の活動の一環として、辛亥革命百周年の記念事業がおこなわれる場合もあった。⁽¹⁹⁾ これが第五である。こうした例を列挙すると以下の如くである。六月、辛亥革命百周年を機縁として孫文と出身地を同じくする華僑華人の同郷会結成の動きが活発化する。中山同郷会設立準備委員会から名簿作成の呼びかけが僑報上でなされ、七月には、同準備委員会によって、横浜商科大学主催講座のうち辛

辛亥革命関係講演への参加呼びかけが、「特に中山出身のみなさま、ぜひお誘いあわせてどうぞ」となされた。中山同郷会設立準備委員会は、また、一月一六日から二〇日まで、「辛亥革命100周年を記念する広州・中山・開平の三都市を巡る広東の旅」を開催し、一三名の同郷者が参加した、という。同じく一月、横浜の広東会館俱樂部では、同倶楽部創立六〇周年企画として「孫文と横浜華僑——辛亥革命を支えた盟友たち」が開催され、横浜居留地の地図、年表、新聞記事などによって、孫文と「横浜華僑との絆」を紹介した、とされる。

6 その他

以上のほかに、辛亥革命百周年を記念して本国で出版された書籍の日本での公開⁽²⁰⁾、来日芸術団体の公演⁽²¹⁾、記念劇映画の一般公開⁽²²⁾などが報道されている。

おわりに

日本における中国政府の出先機関や在日華僑華人組織が開催した辛亥革命百周年記念事業は、極めて整序された形で、「中華民族の統一」という命題の実現に向かって準備された。頂点にあったのは、既述したとおり、九月四日に中国駐日大使館で開かれた大使館と全日本華僑華人中国平和統一促進会（日本華僑統促会）共催の「記念座談会」であった。ここに在日華人社会を代表するほとんどの組織、日本華僑華人聯合總會、東京華僑總會、留日台湾省民会、横浜華僑總會、日本華人教授会議、全日本学友会、日本中華総商会、日本華僑華人文化芸術家連合会など

の代表者が集合し、本国と日本の統一促進組織の代表者からの発言により、辛亥革命の成果と孫文の活動を基盤に台湾問題の平和的解決による中国の完全なる統一を目指すことが確認された。日本華僑統促会は、この「記念座談会」に向けて、在日華人学者を講師として学習会を開き、極めて丁寧な科学的・学術的に百周年を記念するごとの意義について在日華僑華人社会に対し周知徹底をはかった。

「中華民族の統一」は、大陸と台湾という次元から見れば低位ではあるが、在日華僑華人からすれば極めて身近な問題としての、同郷会の組織化という次元でも顕現した。横浜においては未結成であった、孫文の出身地中山市の出身者を糾合する同郷会の組織化が、辛亥百周年を機に、名簿の作成や中山市への里帰り旅行の開催などといった形でおこなわれた。つまり、まず第一に、辛亥革命百周年記念事業は、日本の華僑華人社会においては、複数の次元での民族の統一や結合の再確認の場として、優れて政治的に機能した。

第二に、辛亥革命を主導した孫文の活動が、一定期間日本でおこなわれ、極めて少数ではあったが日本人の中からこの活動に献身的に参加した者が出現したという歴史的事実に徴して、辛亥革命百周年記念事業は日本との友好関係の再確認の場としても機能した。一方、辛亥革命勃発時の日本政府の一部の対応が、満州事変以降の日本の侵略政策と通ずるものがあることを示唆する史料の紹介も、日本華僑統促会の学習会ではなされており、こうしたことから、辛亥革命百周年を機とする日中友好の再確認は、少なくとも華僑華人社会では一定の学術的立場を維持した冷静な活動としておこなわれたものとすることができ、結果的に、日本の一部政治家等によってなされた、辛亥革命に貢献した特定の日本人の称揚が、その政治性を際立たせることとなった。²⁴

以上のような、辛亥革命百周年を機に日本で開かれた「周年記念事業」に関する、僑報での報道は、華僑団体の

活度方針に対し極めて忠実な形で、いわば華僑団体の活動方針の範囲内でなされていることも、大きな特質である。たとえば『横浜華僑通訊』の発行主体である横浜華僑総会は、二〇一一年七月、第一〇回会員代表大会を開催して、二〇一一年から一三年にかけての活動方針を決定した。決定は「神奈川県下の華僑華人の『安居楽業』のために」、三つの方針と十の具体的活動を提起している。三つの方針とは、「華僑華人の大同団結」、「中国の平和統一」、「中日友好」である。⁽²⁵⁾ 横浜華僑総会は、横浜華僑華人社会に形成された同郷団体や同業団体等より細分化された諸団体（僑団）および横浜華僑華人個人を統合する組織であり、そのことは総会の意思決定機関である会員代表の選挙規定からもうかがわれる。会員代表候補者は、理事会により選出された選挙委員会が「各僑団と充分連携を取り合った上で、各層、各地域（出身地——松本注）から、あるいは本会会員二名より推薦された会員から選出することになっている。⁽²⁶⁾ 僑報において、台湾との平和的統一を目指す華僑華人中国平和統一促進会の周年記念事業、周年記念事業におけるあらたな同郷団体の組織化の動きが比較的手厚く報道されていることは、「華僑華人の大同団結」、「中国の平和統一」という方針に合致したものであるし、学術的会議やシンポジウムに関しても、「中日友好」という観点から僑報で報道するか否かという取捨選択がおこなわれた可能性がある。たとえば主催者・参加者・テーマなどの持つ中国と日本との共同性の強弱が、厳密に吟味され、日本の研究者や団体が単独で開催するものは、少なくとも僑報では取り上げないといった判断がなされたのかもしれない。

辛亥革命百周年の記念事業に関する僑報での報道は、極めて冷静な、日中関係、中台関係即ち東アジアにおける主要な流動的要因に対する政治的判断を基底に置きながら、なされたものとすることができる。

注

- (1) 『華僑報』一七九八、二〇一二年二月、第一面。
- (2) 『横浜華僑通訊』四五七、二〇一二年二月、第一面。
- (3) 「一連の記念活動展開へ 中国僑聯、辛亥革命百周年で」『華僑報』一七八一、二〇一一年五月、第一面。
- (4) 「寥会長ら日本から50名出席 マカオで辛亥革命百周年大会」『華僑報』一七八四、二〇一一年七月、第一面。
- (5) 「辛亥革命博物館 武漢にオープン」『華僑報』一七九一、二〇一一年一〇月、第二面。
- (6) 「中華民族の偉大な復興を強調 辛亥革命百周年で胡主席が重要演説」『華僑報』一七九二、二〇一一年一〇月、第一面。
- (7) 「辛亥革命百周年で記念座談会 中国大使館と華僑統促会が共同主催」『華僑報』一七八九、二〇一一年九月、第一面。
- (8) 「辛亥革命百周年記念し 中国大使館が招待会」『華僑報』一七八九、二〇一一年九月、第一面。
- (9) 「慶祝中華人民共和国建国62周年、慶祝中日国交正常化39周年 記念辛亥革命100周年」『横浜華僑通訊』四五三、二〇一一年一〇月、第一面。
- (10) 「県日中友好協会「辛亥革命記念シンポ」開く」『横浜華僑通訊』四五六、二〇一二年一月、第二面。
- (11) 「新潟華僑華人総会が 辛亥革命百周年で記念講演会開く」『華僑報』一七九二、二〇一一年一〇月、第一面。
- (12) 「辛亥革命百周年記念シンポジウムのご案内 辛亥革命とアジア」、『辛亥革命とアジア』 神奈川県大学でシンポジウム」『華僑報』一七九一、二〇一一年一〇月、第二面。「辛亥革命100周年記念シンポジウム『辛亥革命とアジア』」『横浜華僑通訊』四五四、二〇一一年一〇月、第一面。
- (13) 「辛亥革命100周年記念国際シンポジウム——アジア主義・近代ナショナリズムの再検討——」『華僑報』一七九三、二〇一一年一月、第二面。
- (14) 「辛亥革命百周年記念行事 JAPAN」<http://www.xinhai-sunwen2011.org> (二〇一二年二月二〇日)
- (15) 「辛亥革命百周年記念日本会議」<http://shingai100japan.jp> (二〇一二年二月二〇日)
- (16) 符順和「辛亥革命百周年記念 日中友好のための青少年近代史セミナー」日中友好のためのセミナー開かれる」『横浜華僑通訊』四五二、二〇一一年九月、第二面。
- (17) 「辛亥革命100周年記念 勉強会のお知らせ」『横浜華僑通訊』四四八、二〇一一年五月、第二面。「辛亥革命百周年」記念で

- 華僑統促会が第三回学習会」『華僑報』一七八七、二〇一一年八月、第二面。
- (18) 「辛亥百年 華僑豊碑」写真展開幕」『横浜華僑通訊』四五三、二〇一一年一〇月、第四面。「孫文と梅屋庄吉」七月二六日から東京国立博物館で」『華僑報』一七八五、二〇一一年七月、第二面。「(社) 広東同郷会敬老慶祝会開く」辛亥百年 華僑豊碑」写真展も」『華僑報』一七九〇、二〇一一年一〇月、第二面。
- (19) 「中山同郷会設立準備委員会 広東省中山市出身者の名簿作成にご協力ください」『横浜華僑通訊』四四九、二〇一一年六月、第三面。「聴講しませんか?」『辛亥革命100周年 中国革命の父・孫文と横浜華僑』『横浜華僑通訊』四五〇、二〇一一年七月、第四面。繆光祐「辛亥革命100周年記念旅行記 広州・中山・開平の三都市を回る(上)」『華僑報』一七九五、二〇一一年一二月、第二面。「辛亥革命100周年記念」中山・広州・開平の旅楽し」『横浜華僑通訊』四五六、二〇一二年一月、第四面。「孫文展」開催される」『横浜華僑通訊』四五五、二〇一一年一二月、第一面。
- (20) 「辛亥革命百周年記念し 東京で、夢回東方」発刊式」『華僑報』一七八八、二〇一一年九月、第一面。
- (21) 「国務院僑務弁公室派遣 文化中国・辛亥百年芸術団公演のご案内」『華僑報』一七八七、二〇一一年八月、第一面。
- (22) 「映画『辛亥革命』一般公開 9月23日から全国の映画館で」『華僑報』一七九〇、二〇一一年一〇月、第一面。
- (23) 前掲「辛亥革命百周年」記念で 華僑統促会が第三回学習会」『華僑報』一七八七、二〇一一年八月。
- (24) 前掲「辛亥革命百周年記念し 中国大使館が招待会」『華僑報』一七八九、二〇一一年九月。
- (25) 「第10回2011～2013 横浜華僑総会会員代表大会開かれる」、『横浜華僑総会 2011～2013年活動方針』『横浜華僑通訊』四五一、二〇一一年八月、第一面。
- (26) 「華僑総会、会員代表大会に向け 会員代表選挙委員会と 理監事選挙委員会開く」『横浜華僑通訊』四四九、二〇一一年六月、第一面。